新十日町市博物館基本計画書

平成28年3月

十日町市

目　次

第1章「基本的な考え方」……01
（1）計画の背景
（2）新博物館のめざす姿
（3）新博物館の基本方針
（4）施設活動の基本的考え方

第2章「活動計画」……05
（1）施設活動計画の概要
（2）活動計画

第3章「展示計画」……07
（1）展示計画の考え方
（2）展示計画の展開方針
（3）展示と連携する施設計画／活動計画

第4章「施設計画」……12
（1）施設計画の方針
（2）想定される規模
（3）立地環境
（4）建築計画
（5）現況写真
（6）施設諸機能
（7）施設機能／構成概念図
（8）建築面積／延べ床面積／面積表

第5章「博物館建設に向けて」……24
（1）建設事業スケジュール
（2）建設費用の概算

第6章「設計に向けて」……25

附　編……26
（1）新十日町市博物館基本計画検討委員会委員名簿
（2）基本計画検討委員会開催経過
（3）事務局

(1) 計画の背景

十日町市の歴史

十日町市は新潟県の南部、千曲川が長野県との県境で信濃川と名前を変えて間もないところに位置しています。市街地が広がる十日町盆地は、東西を魚沼丘陵と東頸城丘陵に挟まれ、その中央には大河・信濃川が南北に流れます。そして、その両岸には広大な河岸段丘が形成されています。

この悠久の大地に住み継いだ先人たちは、豪雪や洪水、地滑りなど自然の脅威にさらされてきました。しかし、この厳しい環境の中で自然からの恵みを活かして、雪国の文化を育み、困難を乗り越え田畑を拓いています。また、美しい機を織り出しながら生活の糧を得て、今日に至る歴史を築きました。

地域文化の創造拠点として

十日町市は平成17年4月に、川西町・中里村・松代町・松之山町と合併し、新・十日町市として生まれ変わりました。それぞれの地域では、固有の風土や歴史・文化が現在も連綿と受け継がれており、後世に残すべき新しい宝物です。

これらの中でも、重要有形民俗文化財「越後縮の紡織用具及び関連資料2,098点」(昭和61年指定)、同「十日町の積雪期用具3,868点」(平成3年指定)、そして、素晴らしい造形美の火焔型土器を含む新潟県唯一の国宝「新潟県笹山遺跡出土深鉢形土器57点(附871点)」(平成11年指定)は、国内外に誇ることができる貴重な財産です。

十日町市博物館は、昭和54年の開館以来、「妻有地方の自然と文化」をテーマに掲げ、「雪」と「織物」と「信濃川」を柱に活動を続けてきました。今後も、開館以来のパートナーである博物館友の会と共に、地域の歴史・文化を守り継承して、その魅力を発信し、未来に向かって地域文化を創造する拠点として活動を続けて行きます。

国内外へ十日町市の魅力を発信する施設を

現在の博物館は、平成３年に「考古展示室」・「中世展示室」を増築しました。さらに、開館15周年にあたる平成６年には、開館当初から残る常設展示室をリニューアルしています。

その後、昭和54年に開館した建物が30年を経過し、耐震補強工事が必要なことから、これに合わせて大幅な展示リニューアルを計画しました。そして、平成22年度に「十日町市博物館展示替え基本構想検討委員会」が開催され、続く平成23・24年度には耐震診断、耐震補強設計、建築物改修基本計画・改修実施設計を実施しました。

平成25年９月、2020年東京オリンピック・パラリンピックの開催が決定すると、これを契機に当市では「国宝・火焔型土器をオリンピック聖火台のモチーフに」という運動が起こり、また、日本文化の源流である縄文文化を世界に発信しようという機運が高まりました。このため、それまで検討していた既存の建物を耐震補強工事後に展示リニューアルした場合、休館によって長期にわたり国宝の公開が不可能になることや、博物館機能の一時的な移転先および国指定文化財を含む収蔵資料の保管場所の確保が困難なことなどから、平成32年春の開館を目指して新しい博物館を建設することにしました。

そして、平成26年度に博物館では「新十日町市博物館基本構想」を作成しています。平成27年度には「新十日町市博物館基本計画検討委員会」が開催され、本格的に新博物館建設事業が動き出しました。

(2) 新博物館のめざす姿

新博物館の基本理念

「市民・来館者と共に考え、活動し、成長する博物館」

新博物館のビジョン

新しい十日町市博物館は、十日町市の多様で豊かな自然と歴史・文化について、市民・来館者の皆さんと共に探究し、保全・継承し、その価値を国内外に発信します。このことにより、十日町市の特徴と素晴らしさに気づき、地域をより良くしようとする人々が集い、誇りと活気に満ちた社会づくりを目指します。

新博物館の使命

新しい博物館は、かけがえのない地域の財産である「国宝・笹山遺跡火焔型土器群をはじめとした縄文文化」と「古代にまで歴史がさかのぼる織物文化」、これらを生み出す原動力となった「雪と信濃川の恵みと文化」を守り継承して、その魅力を国内外に情報発信する施設です。そして、以下の使命を掲げて活動します。

(1) 市民の知的関心に応えるため、資料や情報を収集・保存、調査・研究、展示・普及し、生涯学習の拠点としてその役割を果たします。

(2) 地域の歴史や文化に対する市民の理解を深め、より良い未来に向かって市民と共に新しい価値を創造します。

(3) 魅力ある財産として地域固有の歴史・生活文化・産業に光をあて、その活用を通した来館者との交流により地域振興に貢献します。

(4) 市民及び来館者と対話しながら共に成長し、また、博物館友の会、他の博物館・関係機関と連携して活動します。

新博物館の目標

「国際的な観光集客」・「地域文化の活性化」・「十日町ブランディング」を視点に市民と共に十日町市の魅力を国内外に発信し、十日町の未来を創造

①国際的な観光集客

国宝・笹山遺跡火焔型土器群の価値を広くアピールし国内外から観光集客

②地域の活性化

十日町市が世界に誇る国宝の素晴らしさ、織物の美を市民が共有し地域文化の活性化につなぐ

③十日町ブランディング

火焔型土器が集中する信濃川流域や雪国の風土・自然を活かす地域ブランド化

(3) 新博物館の基本方針

1. 新博物館の機能

1 展　示

①常設展示は、**「国宝・火焔型土器のふるさと―雪と織物と信濃川―」**をテーマに、**「地域の歴史と文化」**を導入展示とし、テーマ別展示である**「縄文時代と火焔型土器のクニ」**、**「織物の歴史」**、**「雪と信濃川」**の4つで構成します。
②展示は実物資料を中心とし、映像・音声・模型・参加体験型展示などの手法も取り入れ、誰もが親しめるわかりやすい展示を行います。
③実物資料の展示にあたっては、その保存と管理に十分配慮します。

2 教育普及

①講座や講演会、体験活動、調査研究に基づいた企画展や特別展を開催し、市民と共に知的楽しみを分かち合います。
②学校教育を積極的に支援し、地域に対する子どもたちの理解を深めます。
③市民による展示解説案内等ボランティアの育成を行い、来館者と市民との交流を通して市民の生きがいづくりを促進します。

3 資料収集・保存

体系的に地域資料を収集、整理、保存し、市民共有の財産として次世代に継承します。

4 調査研究

①調査研究を継続的に行い、新たな事実や価値を発見して博物館活動に反映します。
②博物館友の会研究グループや古文書整理ボランティア等の調査成果を展示活動に活かします。

5 情報発信・公開

①誰もが調べることができる学習拠点として情報を発信します。
②収集した地域資料や図書、調査研究成果等をデータベース化し、国内外に広く公開します。

6 施設の管理・運営

安全と安心を第一に危機管理を行い、また、誰にもやさしい博物館として施設を運営します。

7 ホスピタリティ

新博物館を訪れる様々な来館者が、滞在・利用することで深い心地良さや信頼、安心感を得ることのできる場所づくりを目指します。

2. 現博物館の機能

・埋蔵文化財資料の整理
・各種資料(国指定文化財3件・重要資料除く)の収蔵と整理
・一部施設の除却を検討

(4) 施設活動の基本的考え方

地域の財産である“歴史・文化・人材”を継承し、創造、発信する拠点としての「活動計画」・「展示計画」・「施設計画」

悠久の昔から多彩な自然環境の中で培われた十日町市の新たな魅力を発見する拠点にふさわしく、活動・展示・施設が一体となった博物館を整備します。

1. 活動計画

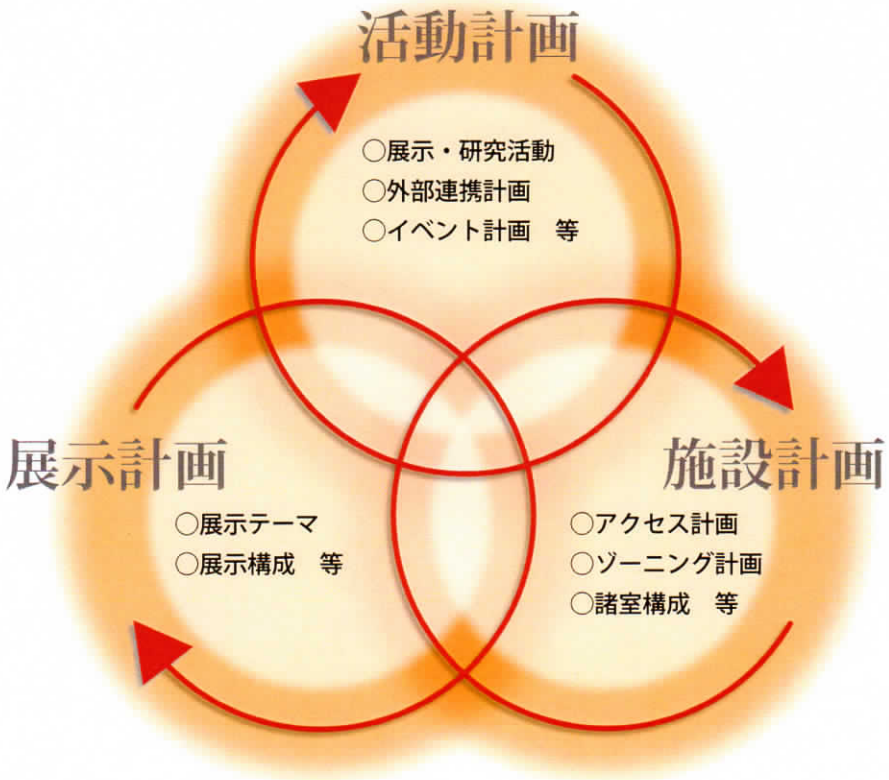
人と人との交流をとおして、十日町市の各地域が培った歴史・文化に様々な世代が触れることによって、さらなる創造が可能となる活動を目指します。

2. 展示計画

十日町市の歴史・文化を心と体で感じ、五感に響く展示を目指します。

3. 施設計画

国宝・火焔型土器や織物に込められた美しさを体現する機能美と、雪と信濃川にみる十日町市の自然美や多彩さを象徴する品格ある施設を目指します。



(1) 施設活動計画の概要

新博物館の果たすべき機能を鑑みて、施設の基本的な活動のあり方を示します。活動は、多種・多様な目的と興味をもって訪れる来館者に対して、わかりやすく、興味深く、十日町市の歴史と文化を発信する「交流活動」と、これを実行するための基礎となる「基本活動」に大別されます。

交流活動

来館者及び十日町市への来訪者と市民との交流を図ると共に、生涯学習の拠点にふさわしい活動を行います。

1 情報提供活動 ……十日町市の歴史と文化に触れる道案内の役割を果たします。
2 企画・広報活動 ……博物館の活性化を促し、人的交流の場を提供します。
3 学習・研究支援活動 …学習・研究拠点としての役割を果たします。

基本活動

資料や情報を収集・保存、調査研究し、教育普及活動に反映させます。

4 展示活動……十日町市の歴史と文化に触れる機会を創出します。
5 資料収集・保存活動 …貴重な地域資料を後世に確実に伝えます。
6 研究活動……十日町市の歴史と文化の研究・顕彰を実践します。

(2) 活動計画

1 情報提供活動

○十日町市の歴史と文化に関連する有形・無形文化財などの情報について、データベースを作成し、その情報提供を図ります。
○常設展示に関連した図書資料などを閲覧できるスペースの設置や、市内各地域の名所・旧跡などへのガイド機能の充実を検討します。
○博物館データベース(公開可能なものに限る)にアクセスできる検索コーナーの設置を検討します。

2 企画・広報活動

○雪まつりや大地の芸術祭などの開催に合わせ、地域全体で十日町市を体感できるイベントの開催を目指します。
○十日町市の歴史と文化をテーマとしたシンポジウムや講座、講演会などを開催し、市民の郷土への関心と理解を深めます。
○広報用ポスターやパンフレット、展示案内図録などを作成します。
○来館者や市民アンケートを行い、その結果を博物館の活動に反映させるよう努めます。
○各種メディアに対して、積極的な広報活動を行います。
○インターネットを利用した広報活動を行います。

3 学習・研究支援活動

○参加体験型プログラムなど、学校の学習支援を積極的に行います。
○博物館友の会や展示案内ボランティアの育成など、協力団体への支援を行います。
○所蔵資料の貸出やデジタルアーカイブ化による研究支援を目指します。

(2) 活動計画

4 展示活動

○十日町市の歴史と文化について知ると共に、各地域の特性や風土についても触れることのできる展示を行います。
○常設展示とは別に企画展示を行い、展示をより一層幅広く奥深いものとします。
○館内展示にとどまらず、館外で行う各種活動も考慮して、十日町市の歴史と文化を様々な角度から体感できる展示を目指します。
○来館者が楽しみながら学ぶことができる参加体験型展示を積極的に行います。
○展示解説シートやワークシートを作成します。

5 資料収集・保存活動

○一次資料(実物)を収集すると共に、この入手が困難な場合は、二次資料(複製・模造・写真・映像など)としての収集も検討します。
○収蔵庫内の温湿度について、変動の少ない環境を整えます。
○収蔵庫内の空気を清浄に保つ環境を整えます。
○火災や地震、盗難などの災害・非常時に配慮した設備を整えます。

6 研究活動

○調査研究を進めるにあたり、地域の有識者や他館の学芸員などとの人的ネットワーク作りを目指します。
○他館との共同研究や活動を視野に入れ、開かれた研究体制を目指します。
○市民などが参加しやすい研究発表の場の提供を目指します。
○館報や研究紀要、企画展図録などを刊行します。

(1) 展示計画の考え方

■全体テーマ

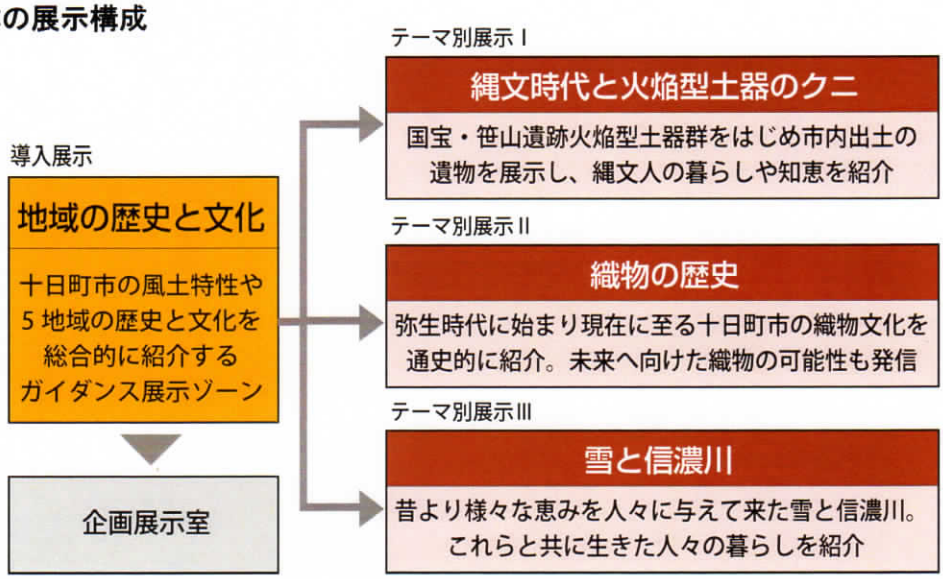
「国宝・火焔型土器のふるさと　―雪と織物と信濃川―」

■展示構成

常設展示は十日町市の歴史・文化を総合的に紹介する導入展示と、テーマ別展示で構成されます。導入展示において来館者の興味を喚起し各展示室へ誘います。

①地域の歴史と文化　②縄文時代と火焔型土器のクニ　③織物の歴史　④雪と信濃川

■全体の展示構成



■導入展示

「地域の歴史と文化」

常設展示ⅠからⅢへ来館者を導くガイダンス的展示です。過去から現在の十日町市の姿と、合併した旧5市町村(十日町・川西・中里・松代・松之山地域)の歴史・文化を紹介し、来館者と各地域との交流を図ります。

①十日町市の今

地理的位置や沿革、産業、観光など現在の十日町市を紹介します。地形模型および年表(縄文時代～現代)の作成を検討します。

②地域の文化遺産

指定文化財(国・県・市)を中心として、市内5地域に固有の歴史・文化を紹介します。また、各地域の歴史概要や風土の違いについても触れます。来館者の足を各地域へ運ばせる観光案内的要素も考慮します。

地　域	旧中魚沼郡(妻有郷)			旧東頸城郡(松之山郷)	
	十日町	中里	川西	松代	松之山
主な指定文化財ほか	国宝・笹山遺跡出土品	清津峡・田代の七ッ釜(国)	星名家住宅(国)	松苧神社本殿(国)	旧村山家主屋・表門(市)
	神宮寺観音堂・山門(県)	角間のねじりスギ(県)	赤谷十二社の大ケヤキ(県)	犬伏城跡(市)	上川手歌舞伎(市)
	大井田城跡(県)	久保寺南遺跡出土品(県)	節黒城跡(市)	室野・苧島神楽(市)	大荒戸の庚申夫婦スギ(市)
	小貫諏訪大社の大スギ(県)	干溝遺跡隆起線文土器(市)	野口神楽(市)	七つ詣り	婿投げ・スミぬり
	赤倉神楽(市)	田代神楽(市)	自然石梵字碑群(市)	松之山街道	奴奈川姫伝説
	天神ばやし	桔梗原新田開発絵図	瀬替え	棚　田	温　泉

(2) 展示計画の展開方針

■常設展示Ⅰ
「縄文時代と火焔型土器のクニ」

十日町市は、国宝・火焔型土器が出土した笹山遺跡に代表されるように、縄文時代遺跡の宝庫です。これらの遺跡から出土した遺物を展示して、縄文人の暮らしを誰にでもわかりやすく解説すると共に、現代につながる縄文人の知恵や思いを伝えます。

①火焔型土器のクニ　十日町

笹山遺跡や野首遺跡など、市内の中期遺跡から出土した火焔型土器の優品を一堂に展示して、その圧倒的な存在感を体現します。個々の土器は、360度方向から観覧可能とし、定期的な土器の入れ替えを行うよう配慮します。

②縄文時代のはじまり

久保寺南遺跡(県指定文化財)や千溝遺跡など、市内の縄文時代草創期遺跡から出土した遺物を展示して、時代区分・年代、自然環境、土器のはじまりなど、縄文時代を概説します。

③縄文人の衣食住

市内の遺跡から出土した遺物(土器・石器・土製品など)を展示して、縄文人の生活をわかりやすく解説します。竪穴住居ジオラマ(現博物館のものを一部縮小リニューアルも検討)や参加体験型展示を取り入れます。

④縄文土器の造形

赤羽根遺跡(前期)や樽沢開田遺跡(後・晩期)など市内の遺跡から出土した早期から晩期までの土器を一堂に展示して(国宝・笹山遺跡出土品含む)、文様の変遷や形のバラエティーなど、その造形美に迫ります。定期的な土器の入れ替えを行うよう配慮します。

⑤縄文の華 火焔型土器

火焔型土器の白眉と称される国宝・笹山遺跡火焔型土器(指定番号1)を1点のみ展示し、究極の造形美に迫ります。演出を極力排除し、来館者が土器と対峙して、360度方向からじっくりと観覧できるよう配慮します。

■展示イメージ

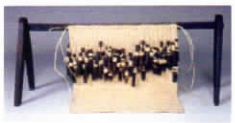
(2) 展示計画の展開方針

■常設展示Ⅱ
「織物の歴史」

弥生時代にはじまり現在に至る十日町市の織物文化を通史的に展示します。また、未来に向けた織物の可能性についても触れます。

①機織りのはじまり（原始：縄文～弥生）

城之古遺跡からは、糸に撚りをかける紡錘車（土器片を利用）が出土しており、十日町市では弥生時代から織物が織られていたことがわかっています。織物のはじまりと歴史を解説すると共に、縄文時代にまで技術がさかのぼる越後アンギン（編布）についても取り上げます。



②「白越」の時代（古代：古墳～奈良・平安）

馬場上遺跡（古墳～奈良・平安時代）からは紡錘車が出土しています。越後産の織布は品質が高く、平安時代中期には白越（麻織物）と呼ばれていました。古代において調や庸などの税物として納められていた織布について解説します。

③「越後布」の時代（中世：鎌倉・室町・戦国）

鎌倉時代、この地域には上野国（現群馬県）の新田氏一族が進出し、大井田城跡や伊達八幡館跡など多くの城館跡が残されています。また、この地方は青苧を原料とした越後布の主要な産地であり、青苧からの収益は上杉氏の重要な財源でした。魅力のある物産としての越後布と青苧について解説します。

④「越後縮」の時代（近世：江戸）

江戸時代になると、越後布に改良が加えられ、緯糸に強い撚りをかけて織られた越後縮が誕生しました。越後縮は武家の式服に採用されたことで需要が高まり、この地域は主要な産地になると共に縮市場が開設され、取引の中心地として栄えました。重文・越後縮の紡織用具、市指定・縮問屋加賀屋資料などを展示して、越後縮の生産から販売までの流れを解説します。

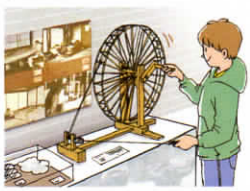
⑤「明石ちぢみ」の時代（近代：明治～大正）

明治時代になると、この地域の織物は麻から絹織物に急速に移行し、工場制工業へ発展しました。絹織物の明石ちぢみは、「ちぢまぬ明石」、「ぬれない明石」と呼ばれ全国に名をとどろかせています。明石ちぢみが誕生して、絹織物産地十日町の基礎を確立する看板商品になるまでの流れを解説します。

⑥「十日町織物」の時代（現代：昭和～平成）

第二次世界大戦が終わると、十日町の織物産業は十日町小絣、マジョリカお召、黒絵羽織など次々と新商品を発表しました。戦後から染めと織りの総合生産地体制が確立した昭和40年代までを解説します。また、織物産地のPRとしての役割を果たし、現在まで続く「十日町雪まつり」についても触れます。

■展示イメージ



(2) 展示計画の展開方針

■常設展示Ⅲ
「雪と信濃川」

雪と信濃川は、古くから様々な恵みを郷土に与えて来ました。これらと関わり、そして共に生きてきた人々の暮らしについて展示します。

①雪国 十日町　ー雪の中でのくらしー

十日町市は、都市として世界有数の豪雪地です。人々は半年余りの長い間、雪の中での生活を余儀なくされてきましたが、その厳しさを乗り越え、雪を利用し、楽しみを作り出す工夫と努力を重ねてきました。こうして育まれてきた雪国特有の文化について、現在と比較しながら解説します。

【展示項目案】

豪雪の街
最大積雪深の推移、災害(旬街座の惨事・雪崩など)、昔の写真資料

雪とのたたかい
外仕事、冬じたく、雪掘り、道踏み、運搬作業など
「北越雪譜」や昔の写真資料と現代との比較

囲炉裏を囲んで
中仕事、稲始末、藁仕事、家事、機織りなど
復元民家(現博物館)の移築を検討

春を待ちわびて
予祝行事、小正月行事(鳥追い・ドウラク神ほか)、節季市(チンコロ市)など

利雪と克雪
雪室(雪穴)、雪晒し、ロータリー除雪車、消雪パイプ、流雪溝など

②母なる大河 信濃川　ー川と共に生きるくらしー

十日町市の中央を流れる信濃川(支流を含む)の両岸には、幾重にも渡り河岸段丘が形成され、この台地の上では古くから人々の生活が営まれています。信濃川と人々との関わりについて展示します。

【展示項目案】

川と台地　自然、地形・地質(河岸段丘の形成)、支流の広がり、棚田など
川と交通　荷舟、渡し舟など
川の恵み　川漁、米作り、新田開発、瀬替え、水力発電(支流含む)など
川とのたたかい　水害、治水(堤防)、地すべりなど

■展示イメージ

(3) 展示と連携する施設計画／活動計画

■展示と連携する施設計画

施設内各所にて十日町市の地域文化、特徴を体感させる施設計画の展開

展示は、展示されている資料そのものや解説などのみで成り立つのではなく、それらの意図するところをあらわす建築や内装、環境などと互いに呼応しあって、博物館独自の存在感を生み出します。

本施設においても、各テーマ展示を感覚的に示す建築設計や内装設計、また十日町市の風土や地域文化を十分に感じ取れる環境設計をほどこすことで、展示内容のより深い理解を促して、本館独自の総合的な展示効果の達成を図ります。

■展示と連携する活動計画

市民と共に地域文化を創造する拠点として、様々な利用者層に対応した活動プログラムの展開

来館者が博物館の展示を楽しむのみにとどまらず、博物館を拠点に地域文化を学び、人々と交流するためのきっかけづくりとして、周辺地域へ出かけるプログラムや利用者別の講座、イベント等、子どもから高齢者まで様々な世代の利用者を想定した活動プログラムを検討します。

活動プログラム案

1.現代性と結び付ける活動プログラム

過去に作り出された資料や活動を現代と結び付けることで、新しい未来ある博物館づくりを目指します。過去と現在の双方の活動に触れる機会を提供し、文化振興に寄与することを目的とします。

2.地域の人々の活動を結び活性化する活動プログラム

地域に根ざした文化活動を行う団体や個人に活動の場を提供します。地域との連携を深めることにより、地域に根付き、開かれた博物館づくりを目指します。

3.女性が楽しめる活動プログラム

年齢を問わず、女性に博物館へ足を向けてもらうことを目的とします。女性の目線で博物館の活動や展示に注目することで、新たな来館者層を引きこむことを目指します。女性の目線から新たな魅力の開拓を行っていきます。

4.子どもとあそびを繋げた活動プログラム

家庭と博物館における教育が効果的に連携する時、家族以外の様々な博物館利用者にとっても効果的な教育のモデルとなると考えられます。また、子どもが参加する事で家族という来館者層の獲得にも繋がります。

5.学校連携活動プログラム

学校と博物館の連携が、児童・生徒の博物館資料を用いた学びや、様々な学習の機会につながります。自分たちが住んでいる地域の理解を促進するのみでなく、博物館リテラシーの向上にも有効な方法と考えられます。